

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2010年3月)
 ~4ヶ月連続で上昇~

発表日 2010年4月8日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
09年	1	17.1	19.0	14.6	10.1	22.1	24.2	19.3	14.9	14.6	16.1	12.8	8.3
	2	19.4	21.5	16.7	11.9	26.5	28.2	24.5	19.6	14.7	16.8	11.5	8.5
	3	28.4	30.0	27.2	20.1	35.8	36.8	36.0	29.3	19.0	21.4	15.9	10.6
	4	34.2	35.7	33.7	25.6	39.7	40.7	38.9	34.4	21.6	24.0	19.6	10.1
	5	36.7	37.2	37.1	32.3	43.3	43.6	43.6	41.3	23.1	25.9	19.9	12.6
	6	42.2	42.4	42.9	39.9	45.6	45.5	46.4	44.2	27.1	30.0	24.0	15.3
	7	42.4	41.4	45.9	41.5	44.9	43.8	47.9	45.5	27.5	29.4	27.1	16.7
	8	41.7	40.3	44.9	43.7	44.0	42.7	46.5	46.6	28.7	30.0	28.6	20.4
	9	43.1	41.8	45.7	46.1	44.5	44.1	44.9	46.3	31.5	32.9	31.4	22.8
	10	40.9	38.5	44.9	47.3	42.8	42.4	43.1	44.5	29.1	28.9	30.7	26.7
	11	33.9	31.3	38.4	40.5	34.5	34.1	34.1	37.6	24.9	24.0	28.2	23.8
	12	35.4	33.8	37.9	40.7	36.3	35.5	36.8	39.7	25.6	25.5	26.7	24.0
10年	1	38.8	37.4	40.4	44.3	41.9	41.4	42.8	43.1	27.6	27.3	28.5	26.9
	2	42.1	40.6	43.8	48.0	44.8	44.6	45.0	45.2	30.6	30.2	31.9	30.7
	3	47.4	46.5	48.0	51.3	47.0	47.0	46.4	48.3	36.4	36.3	37.6	34.7

季節調整値	景気の現状判断(方向性)								
	DI				前月差				
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
09年	1	19.0	21.8	17.4	11.8	1.3	2.0	3.2	1.8
	2	20.7	22.8	18.1	13.1	1.6	1.0	0.7	1.3
	3	27.3	28.4	26.7	20.3	6.6	5.5	8.6	7.2
	4	31.7	32.9	31.2	24.3	4.4	4.6	4.5	4.0
	5	35.1	35.4	35.7	30.7	3.4	2.5	4.5	6.4
	6	41.2	41.7	39.8	38.9	6.1	6.2	4.2	8.1
	7	40.1	39.3	42.1	38.9	-1.1	-2.4	2.3	0.0
	8	39.6	38.4	42.4	39.4	-0.5	-0.9	0.3	0.5
	9	41.5	40.2	43.3	41.7	1.9	1.7	0.9	2.3
	10	41.3	39.2	44.5	45.3	-0.2	-1.0	1.2	3.6
	11	35.8	33.0	40.8	42.4	-5.5	-6.3	-3.8	-2.9
	12	39.7	37.1	43.7	48.2	3.9	4.1	3.0	5.8
10年	1	43.5	43.4	48.7	52.6	3.8	6.3	5.0	4.4
	2	45.1	43.4	47.9	53.4	1.6	0.0	-0.8	0.8
	3	45.6	44.0	47.1	52.0	0.4	0.6	-0.7	-1.4

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

※季節調整値は第一生命経済研究所試算

○ 4ヶ月連続で上昇

内閣府から本日発表された10年3月の景気ウォッチャー調査では、現状判断DI(方向性)が前月差+5.3ポイントの47.4となった。09年11月には、景気の「二番底」懸念がさかんに報道されたことや、円高の急速な進展と株安、政府のデフレ宣言などの影響からDIが大きく落ち込んだが、12月以降は4ヶ月連続で上昇しており、水準も2007年4月以来のレベルまで回復している。なお、3月には毎年DIが高めに出やす

いという季節性があるため、当社で季節調整値を試算した場合には前月差+0.5ポイントにとどまるが、DIが上昇傾向にある自体は変わらない。①輸出の堅調な推移を背景として受注や生産に持ち直しがみられること、②エコポイント制度の効果で薄型テレビの販売が好調であること、③消費者の購買意欲に改善の兆しが見えること、④雇用・所得環境が最悪期を脱したことなどがDI上昇に寄与しているようだ。内閣府でも、今月の結果を受けて、景気ウォッチャー調査に対する判断を「景気は厳しいながらも、持ち直しの動きがみられる」へと上方修正している。景気に先行する傾向があると言われる景気ウォッチャー調査で前向きな動きが見られていることは、今後の景気を展望する上で明るい材料と言えるだろう。

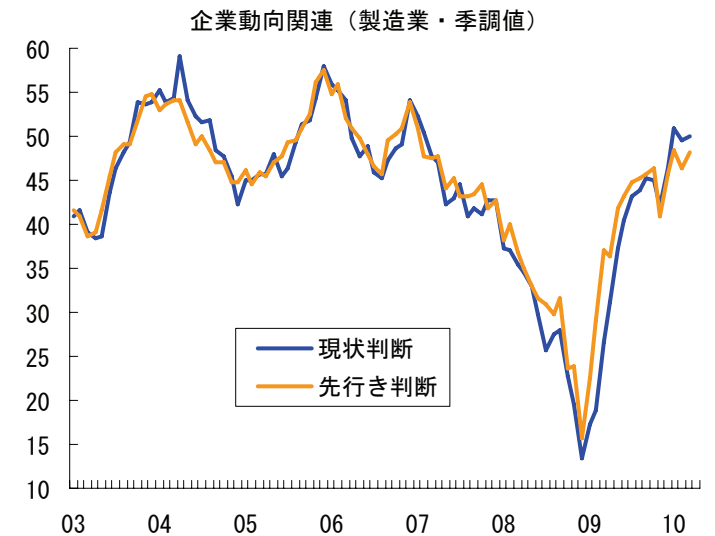
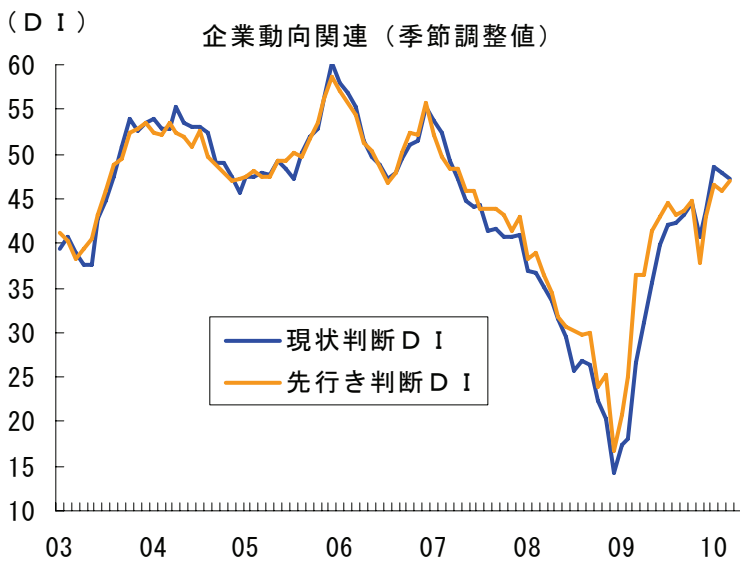
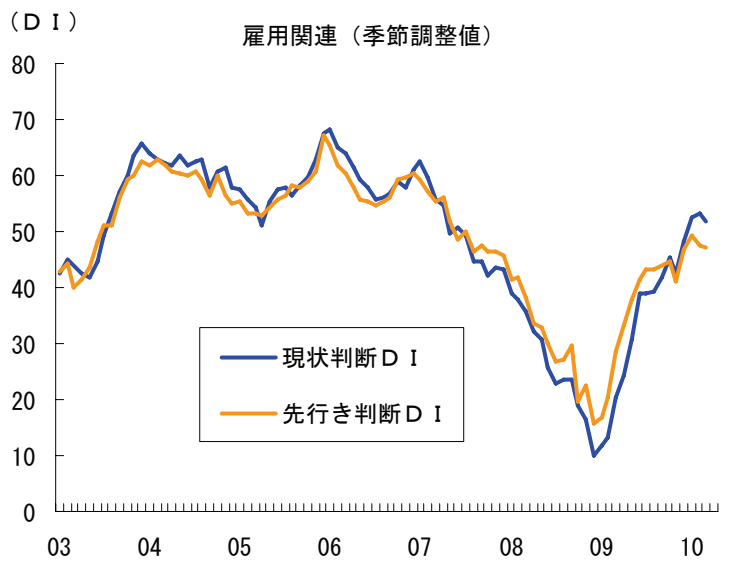
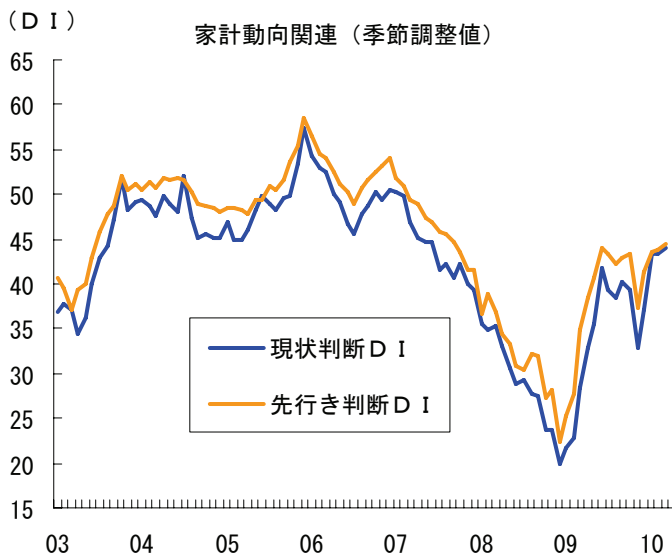
○ 政策効果関連分野以外でも個人消費に持ち直しの兆し？

家計動向関連の現状判断DIは前月差+5.9ポイントと上昇した（季調値：同+0.6ポイント）。「政府のエコポイント制度が4月から改定され、対象商品が大幅に削減されるのを受けて、薄型テレビの駆け込み需要が予想以上に多く、売上全体をけん引している」（北海道・家電量販店）など、4月からのエコポイント制度改定に伴う駆け込み需要を指摘する声が多かった。薄型テレビの売れ行きはかなり好調だった模様で、「店頭展示商品まで無くなる状態である」（四国・家電量販店）との声も聞かれた。なお、3月でエコポイント制度が終わると勘違いして駆け込み購入を行った消費者も多かったようであり、4月以降に反動減が生じる可能性がある点には注意したい。

今月のもう一つの特徴として挙げられるのは、エコポイント等の政策効果以外の消費についても改善したことである。「以前は単品での購入が目立ったが、最近は客が複数の商品を購入するケースが増えつつある」（北海道・百貨店）、「買い控えの反動で春物への消費マインドが高まっている。」（東北・百貨店）、「来客数や客単価、1品単価共にやや上向いているほか、低額商品よりも高額商品の売上が伸びている」（近畿・一般レストラン）、「全体では、まだ厳しいものの、動きのよい商材も出始めている」（北陸・百貨店）など、これまで見られなかったコメントが出始めている。雇用・所得環境が最悪期を脱したことや景気回復期待の強まり等を背景に、家計の消費意欲が徐々に戻りつつあるのかもしれない。

雇用についてもこれまでと比べて明るいコメントが聞かれた。「派遣の増員依頼の求人件数は、この6カ月間で一番多い」（東海・人材派遣会社）、「3月は派遣更新の時期だが、ほとんどが更新している」（沖縄・人材派遣会社）などのコメントが代表的である。雇用環境は依然厳しいものの、限界的には明るさも見え始めているようだ。また、住宅関連についても、「住宅取得資金の贈与に係わる非課税枠拡大のほか、住宅版エコポイントの受付も始まり、客の関心も高まっている」（近畿・その他住宅展示場）など、政策効果によって持ち直しの動きが出てきている。

企業動向関連は前月差+4.2ポイントと3ヶ月ぶりに上昇した（季節調整値では同▲1.4ポイント）。「アジア圏内の貨物輸出入が拡大している」（東海・輸送業）、「機械製造関係、半導体製造関係においては受注が戻ってくる兆しが見られる」（北陸・金融業）など、輸出増加による好影響を指摘する声がみられている。一方、「得意先各社からの平均10%の値下げ要請に加えて、3月から鉄原料価格が高騰している。売上減少と材料費増加のダブルパンチであり、採算面ではかなり厳しくなる」（中国・金属製品製造業）など、原材料価格の上昇による採算悪化を嘆く声が今月は増えていた。資源価格の上昇については、先行きのリスク要因として注意しておきたい。



※出所はすべて、内閣府「景気ウォッチャー調査」。季節調整値は当社による。